

■児童の学力の状況

○学習に意欲的に取り組むことはできる。しかし、互いの意見を交流したり、考えを深めたりすることに関しては意欲的とは言えない。  
 ○「全国学力調査」では、文章構成についての力がついていないことが分かる。またここ数年間のエリア打ち合わせにおいても言語に関する力が課題とされた。エリア共通めあてを「言語の力を上げてできたことを増やす」とし全ての教科等において指導にあたるのが大切である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○学習規律(板橋区授業スタンダード)について共通理解をしているが、徹底が不十分な面も見られる。  
 ○授業の準備などは必ず事前に行わせる。  
 ○電子黒板やタブレット等ICT機器の活用や映像教材の導入を積極的に図りながら指導方法や学習内容を工夫し、児童の興味関心、意欲を継続させていく必要がある。  
 ○発達段階に応じたノート指導について共通理解を図るようにする。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○「板橋区授業スタンダード」を徹底し、ITOの授業形態を全ての教室で実現させ、学力の向上を図る。  
 ○学習指導要領の趣旨を踏まえ基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る。  
 ○教育活動全般を通じ、「読み解く力」の指導に重点を置き、言語能力、問題解決能力など全ての学習の基盤となる力を育む。また、毎時間の授業の振り返りの徹底を図る。  
 ○適切な言語環境及び言語活動の充実や、GIGAスクール構想の下、電子黒板、タブレット等ICTの活用を図り、一人ひとりの興味関心に沿った自主学習を中心にプログラミング的思考を高めながらプログラミング教育を推進し、確かな思考力と判断力及び豊かな表現力を育成する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○課題設定(めあての掲示・明示)→情報収集→分析・考察(考える)→課題解決(振り返り)→新たな課題の設定、という学習の流れを定着させる。	自分の考えをもつ時間を確保する。そしてペア、グループ学習などを活用し、他の人の考えを聞いたり、意見を交換したりする中で自己の考えをより深めることで、よりよい考えを創り出させる場面を設ける。	授業においては、アウトプットのある「めあて」(本時における活動の目標)を具体的に提示し、随時振り返りができるように支援する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○授業の始めと終わりには、全員でそろって挨拶をする。 ○指名されたら「ハイ」と返事をして、その場で立って答える。 ○学習中は、自分の席に正しい姿勢で座り、必要なとき以外は立ち歩かない。 ○発言や発表は、「目・耳・心」の全身で聞くように心がける。 ○話をしている人の方へ体を向ける。 ○話をしている人の顔を見る。	○全学級で、電子黒板を効果的活用し、視覚的にわかりやすい授業を実践し、児童の理解の深化を図る。 ○全学級で、タブレットを活用した授業を行い、児童の考えの共有化や作品等の発表活動を積極的に行う。 ○一人一台端末を活用し、個別、最適な学習を保障し、リモート学習の充実など、新しい時代の学びを支える学校教育の環境整備を図る。	○校内研のテーマ「主体的に問題解決に取り組み発信できる児童の育成」を目指し、一人一台端末を活用した授業力の向上を図る。 ○電子黒板・デジタル教材・映像教材などを活用して、学習内容の理解や児童主体の学習形態の促進を図る。 ○教員個々が自らの資質能力を自覚し、それを補う。また、伸長させるため、区、都や国が開催する研修に参加し、最先端の指導技術を学び、日々の実践に生かす。